



②③⑤⑥⑫⑮分科会が開催されました！

②子育て & 親育ち

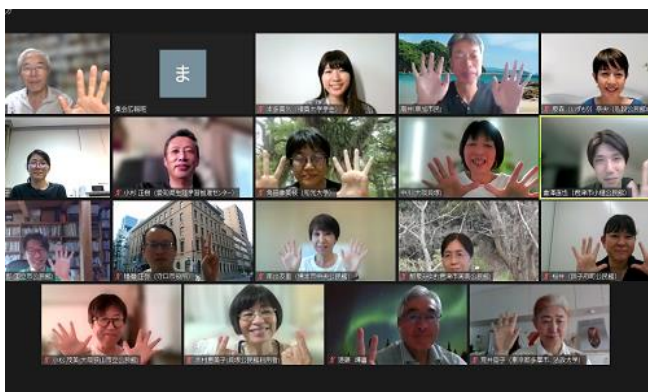
27日、第2分科会「子育て

ち&親育ち」です。出席者は、対面27名、オンライン12名で合計39名の参加がありました。▼午前はこども家庭庁のショートタイム学習会の後、報告者3名の実践発表を聞き、参加者には涙する方もいました。まとめとして、いま求められているものは「親を育てる学びではなく、親が育つ体験」であり、**当事者である親が主体的に活動できる場**が求められているのではと感じました。▼午後はオンライン参加者も含め全員で自己紹介をおこない、その後4つのグループ（対面3つ、オンライン1つ）に分かれて話し合いました。各グループ発表の時間には**共感、気づき、客体から主体へ**などのキーワードが出て、深くそして対面に盛り上がった分科会となりました。

(土井・世話人)

⑤障がいを持つ人の 生涯にわたる学習保障

第5分科会では「障がいをもちつ人の生涯にわたる学習保障」という討議の柱に37人が集まりました。▼①和歌山県紀の川市社会福祉法人一麦会(麦の里) ゆめ・やりたいこと実現センター 尾方千春さん②滋賀県多賀町教育委員会 生涯学習課 石丸茜さん③京都府与謝野町青年学級指導員 井上悦子さん、久古直子さんの報告がありました。それぞれの実践



⑮社会教育職員

報告後に質疑応答が行われました。▼お昼休憩後4グループに分かれグループ・ディスカッションを行い、**障がいのある当事者が自分の人生の主人公になるよう、やりた**
いことをみんなで創り合い、地域とともに歩んで行くこと、継続性が大切だということを話しました。最後に韓国の平生教育についてお話しいただきました。
(半澤・貝塚市立山手地区公民館)

9月3日、今年も**社会教育職員の自己形成の歩み**に着目し、三名から報告いただきました。▼一人目は東京都渋谷区で**長年社会教育主事**として働いてきた**遠藤輝喜**さんの**重みのある語り**。二人目は大阪狭山市公民館にて指定管理者の立場で働く小松茂美さん。**「ご縁」をテーマに、つながりや仕事への思いなどを見事に描いたイラストや手書きのスライド**に感嘆。三人目は**公民館や行政等での職務経験を活かし、私設公民館を立ち上げた泉森奈央**さん(ファシリテーターのいる私設公民館 Well Come 代表)。柔らかな語り口から、自分が大切にしている生き方や価値観をキーワードに整理されたお話しに引き込まれました。▼その後は非常に充実した報告を踏まえ、論点整理に基づきグループワークで語り合い。**明日への元気が湧くような清々しさ**が残ります。オンライン開催、参加者は約20名でした。
(井口・国立市公民館)

12 公民館 (二日目)

八月二十七日、対面でのグループ討議をカフェ形式のゆるりとした雰囲気の中で行った。資料提供での振り返りを行い、感想や参加動機を自己紹介時に話してもらった後に「**ともにつくる」事業を住民と共に出来ているのか？**課題について話し合った。▼グループ発表で印象的なことは、**事業は職員と利用者は両輪で創るもの**。職員はあくまでサポートする側で自発性を大事にし、面白い事ができ子どもたちを中心の事業が公民館を知らない親世代の認知度を増やすきっかけとなる。利用者会議の中でも公民館を知る機会を増やす。まずは学び合う事や話合う事が大切である。▼と濃い意見交換がなされた。▼あつという間に時間は過ぎて熱いものを感じるグループ討議でした。

(木村・貝塚公民館利用者)



③ 若者の自立 と社会参画

若者分科会は、九月二日一三時半より参加者 25 名の自己紹介からはじまりました。▼最初に小林平造さんより討議の柱が述べられ、続いて①北海道・八雲町の「若人の集い」の実践「川口さん(八雲町教委)、政田さん(若人の集い事務局長)」、②龍谷大学での障がい学生支援の実態「瀧本さん(龍大学生支援室)」について2つの報告がありました。▼「若人の集い」には、政田さん自身が若い頃から「**巻き込まれ**」てきたといいます。そこでの**出会いを通じて自身の成長や人生の幅の広がりを実感した**、という語りが印象的でした。▼また瀧本さんの報告を通して、**障が**



いを医学的でなく、社会的な障壁の有無と捉え直すこと、そして「**障がい者**」と一括りにせず、「**知り合う**」ことから**一人の声を聞くことの大切さ**を実感しました。▼そこには愛がありました！若者を思い、憂い、学び、分かち合い、「**愛**」ある会となりました。(井上)

⑥ ジェンダー平等

八月二十七日、働く女性の権利を求めて活動するNPO・子育て支援NPO・男女共同参画センターからの報告があった。国際的に活動し「**大きなもの**」を変えようとしてきた方たち、**女性たちの「小さな声」を拾って日常に寄り添って**きた方たち…

：たたかう舞台も方法もそれぞれ異なっていたかもしれないが、女性たちの置かれている現状に向き合い彼女達の力を引き出していく(エンパワーメント)という点で共通していたように思う。本当に、**こういう方たちが社会における女性の生きづらさを、上からも下からも少しずつ変えてきた**んだなあと感じさせられる報告だった。▼討議では、**こうした活動をどう次世代へ引き継いでいくか**という話もあったので、若者代表(?)として私も少し喋らせてもらった。バックラッシュを経て、最近またジェンダーが息を吹き返してきている気はする。ジェンダーと社会を繋げて考えられるか、それを変えたいと思つて行動できるかという点で、多分まだ若者は頼りない。でも**若者がふと世の中のジェンダー不平等に気づいたときに、分科会に来ていた皆さんのような方が手を広げて待っていてくれたら嬉しい**と思う。私も今、若者がジェンダーについて語れる場所を作ろうとしている。その方法をたくさん学ぶことができた分科会だった。(平見)

速報後記：集会広報班のメンバー募集中です。速報などを発行しています。希望者は現地世話人会事務局まで。
★現在のメンバー：佐藤、玉置、吉水、輪玉、水本、舟瀬、井上、山田(班長)